# オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

## 髙橋克也の裁判とオウム真理教

―オウム真理教対策住民協議会　第30回学習会要旨―

今回で30回目となる抗議デモは、5月9日くもり空の中、約250名の参加者が「ひかりの輪」の居住する施設に向かい、シュプレヒコールを繰り返しながら行われた。今回は子ども連れの母親の参加や、初めて一緒に歩いたという地域の人もいて、学習会への関心もあったようだ。

髙橋克也の裁判は、被害者参加制度で、参加人として髙橋克也の裁判を傍聴した。オウム真理教事件最後の裁判となるが、死刑囚も含め多数の証人が証言した。無期懲役刑の中村は教祖と信者の関係を次のように証言した。「麻原との縁が切れると輪廻転生を永遠に繰り返すことになる」「食事も睡眠も取れず修行は厳しかったが、麻原との絶縁の方が恐ろしかった」医師の中川死刑囚は、サリン事件後、幹部の村井に呼ばれ「首都圏でテロを起こせ」との命令に「それは我々に死ねというのですか」と証言した。さらに上祐史浩からは、地下鉄サリン事件後の平成7年4月11日に「オウム真理教の今後は君たちに掛かっている」と、話しがあったことも証言した。宗教学者もそれぞれの立場や考え方で証言したが、証言の内容そのものは大切なことが言われていた。医師で無期懲役刑の林郁夫証人は、最後に9分間時間をください

と裁判長に願い出たが叶うことはなかった。しかしその証言はオウム真理教や麻原に対しては手厳しい。「あのような事件で多くの被害者を出したことを謝罪したい」「オウム真理教は絶対つぶさなければならない」「麻原は人格障害者だ」「アレフもひかりの輪も、国家の転覆をたくらんでいる」「国を転覆させて、太陽静寂国をつくる計画があった」「麻原が国家転覆後考えた国名が太陽静寂国、アレフは太陽の輪のフレアの逆読みで、ひかりの輪は太陽のフレアで、すべて関連した名前だ」との証言があった。

その後、旧上九一色村のサテアンで入手、未公開の写真がプロジェクターで写され、これまで見ることができなかった部分に触れることができた。最後に住民協議会活動について言及し、「ことなく続けて行ってください」と結ばれた。

「オウム真理教の施設は全国にあるが、活発に活動しているところは少ない。東京では世田谷、足立、地方では滋賀県の湖南市などごく少数だ。北海道札幌のように、学生を中心に信者が増えているが、住民の活動がないと、不安が広がり、捨て地のような存在となる。世田谷の活動も臆する

## 連載　オウム真理教と闘い続ける⑭　安斎俊彰さんより

坂本弁護士一家殺害、松本サリン事件、そして地下鉄サリン事件など凶悪な無差別テロを引き起こしたオウム真理教が、2000年に集団で烏山に転入して来てから15年の月日が経ちました。この間、烏山地域の安全・安心を守るため、抗議デモ・学習会、団体規制法存続・観察処分期間更新の要請行動などに取り組んでこられた、烏山地域オウム真理教対策住民協議会の皆様の活動には本当に頭が下がる思いです。私は平成19年4月から4年間、烏山総合支所地域振興課長として、住民協議会の皆さんの活動を支援させていただいてきました。そして区を退職した今も、リサイクルバザー、抗議デモ・学習会などに参加させていただいています。しかし、住民協議会の皆さんの思いをよそに、現在オウムは、アレフとひかりの輪に分裂しながら、彼らが引き起こした凶悪な事件を知らない若者をターゲットに勧誘を続け、その勢力を拡大しようとしています。その一方で事件の被害者の補償をほとんど行わないなど、極めて不誠実な態度をとり続けています。こうしたオウムの活動を決して許してはいけません。アレフ・ひかりの輪両団体の解散・解体、信者の社会復帰という、住民協議会の皆さんの目的が一日も早く実現することを心から願うとともに、私もできる限りの支援をこれからもさせていただきたいと思っています。

## ある青年の正常な生き方を阻害したオウム真理教　横浜在住　志賀準さん　寄稿

1987年、私が居住するマンションに、オウム真理教の横浜施設が開設された。その後1999年12月からは、上祐史浩との直接対決が始まった。当時は、米国での留学時代に、多量の麻薬服用で精神異常を起こした青年を救うため、私はウエイトトレーニングと格闘技の指導で矯正を試みていた。だがマンションからオウム真理教を退去させる裁判を始めると、報道の取材、連日のテレビ出演で心労が重なり、私の身体も限界となった。裁判の状況をテレビで見た友人が、私がどんどん痩せていくと言われ、妻も体調を崩したこともあり、指導は断念し、横浜市立大学病院精神科に青年を入院させた。オウム真理教との裁判闘争は、教団の退去で決着を見たが、ある朝、マンションの玄関前に救急車が止まった。青年の母親がバーベルで息子を殴り、無理心中を計ったようだ。血だらけになった青年の母親が担架に乗せられ救急車で運ばれて行くのを見送った。数ヶ月後にトレーニングを再開した矢先に、青年は深夜泥酔し自転車で暴走、電柱に激突し大腿骨複雑骨折し、歩行困難となる。その後久しぶりに見た青年の姿は、亀が歩くような速度で、その容姿は老人のようになっていた。私のことも認識できなくなり、意味不明な言葉を発するようになっていく青年を見る度に、オウム真理教入居後多忙を極め、青年を充分指導が出来なかったことを悔やむと共に、私の生活を妨害されたオウム真理教に対する怒りがフツフツと湧き上がってくる。現在もオウム真理教の存在を許している日本の土壌に、怒りを抑えることが出来ない。

## 第30回抗議デモ・学習会のアンケート報告

**【実施日】**2015年5月9日（土）
**【回収枚数】**51枚
**【開催情報の入手方法】**
協議会ニュース15、チラシ8、町会自治会回覧16、その他10
**【学習会及び協議会活動への感想】**

- 地域住民の関心が薄く反対活動もない地区はアレフ入信者が増えていると聞く。烏山地域からひかりの輪の信者が年々少なくなっているのは住民と自治体が一体となり15年間続けている結果だと思います。
- オウム事件が一部では風化しつつある中で、この様なオウムの危険性を伝える学習会が開催される意義は大きいと思います。一刻も早くオウムの解体がなされる事を望みます。また講師の中村先生はこの問題のエキスパートであり大変わかりやすく講演して頂いたことに感謝したい。
- 非常に生々しい話、内部の写真など衝撃を受けながら聴きました。貴重な情報を見せていただき有意義な勉強会になりました。坂本弁護士と同期と伺い胸のつまる思いがしました。オウムを絶対に許さない、オウムの様な団体を認めないという思いを私達も持ち続けていきます。
- 新聞以外でこうした事を聞く機会がないので良かったと思います。今後どういった事が入信のきっかけになってしまうのか？どうしたら入信した人をやめさせられるのか？等が良し悪しもあるとは思いますが話し合えればと思います。
- 写真を紹介されると生々しさを実感する。全体的になっていて分かりやすかったと思う。関係者の方は大変ご苦労なさっていると思います。本日のデモについては申し訳ありませんがハンドマイクが半分程度しか聞き取れない状況だった。
- これだけの事件を起こしたオウム真理教が今なお存続できた理由、要因はなにか？継続は力なり、思い知らされました。
- オウムの異常性を改めて確認した。
ひかりの輪の信者を減らしてきた活動はすごい。烏山の運動は根を絶やすまで続けるという覚悟を感じた。私も力を尽くしていく。
- 人間が人間でいられない様な不安になりました。それと同時にオウム反対の取り組みの継続が重要だと感じた。
- 住民の活動は必要で１人でも多くの人に参加してもらいたい。
- 貴重な写真等を見て改めてオウム真理教の恐さがわかった。高橋克也は長期の逃亡でも修行をしていた様子が報道されるとマインドコントロールの恐ろしさを感じる。

## 第30回抗議デモでの抗議文全文

### 抗　議　文

今年1月、団体規制法に基づく観察処分期間更新が決定し、公安調査庁・警察による、オウム真理教施設への立入検査が継続されることとなった。

この決定にひかりの輪は、以下の内容が事実に反するとして、行政訴訟を起こし、処分の取消を求めている。しかしながら

1、ひかりの輪の構成員が、麻原の説くタントラバジラヤーナ等の説法を行い、その教義が構成員に浸透している。
2、構成員を集団居住させ、管理統制し、一般社会と融和せず、閉鎖社会を構築している。
3、観察処分逃れのため、麻原から脱却したと偽り、教義を記載した書籍を多数保管している。

以上からひかりの輪がオウム真理教から派生した団体であることは自明の理であり、その事実が全てを語るもので、弁明の機会を付与するに価しない団体であることは明白である。

私たちは、公安審査委員会による、観察処分期間更新に至る経緯は知る由もないが、3年間は安心で安全な生活が約束された。地域住民は、20年が経過した現在でも、オウム真理教が行った事件の恐怖を忘れることはなく、オウム真理教の後継団体、ひかりの輪の動向には神経質となる。さらに、ひかりの輪代表が、麻原の右腕としてオウム真理教を支えた上祐史浩であることも、ひかりの輪を容認出来ない重要な条件となっている。上祐は、ホームページでオウム真理教時代の自らの行為を反省したと、その教訓とやらを唱えているが、上祐の本質は変わることはない。うそ偽りのない反省を言うなら、偽証罪で3年間の刑期を終え、出所した1999年に「宗教」と手を切る覚悟が必要だったのではないか。その後アレフの代表に納まり、脱会しひかりの輪を設立、いつまでも「宗教関係」に身を置く上祐を、どうして信用出来るのか。即刻ひかりの輪の解散を要求する。

平成27年5月9日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会
会長　古馬一行

## 住民協議会活動報告

5月20日（水）　実行委員会
6月 1日（月）　協議会ニュース146号初校正
6月 5日（金）　事務局会議
6月 6日（土）　下町まつりで募金活動
6月 8日（月）　協議会ニュース146号再校正
6月10日（水）　オウム真理教対策関係市町村連絡会総会参加
6月16日（火）　協議会ニュース146号発行

協議会ホームページアドレス　http://www.kyogikai.jp

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。

本紙についてのお問い合わせ：世田谷区南烏山6-22-14　烏山総合支所内住民協議会　電話 03（3326）1202・FAX 03（3326）1050